

職員による自己評価

A環境面

・放課後デイで利用している部屋のスペースや職員の配置数が適切でないという回答があった。

B児童への支援内容

・プログラムの固定化をしないよう工夫はしていたが徐々に子どもたちが楽しめている活動に偏る傾向があった。

C関係機関との連携

・家庭環境が複雑なご家族に対し、学校やケースワーカー等と連携を行い自立に繋げた。
・関係機関と連携し情報共有を行った。

D保護者への説明責任・信頼関係

・子どもの様子、支援のことについて逐一情報共有はできている。またコロナウイルス関連の件で随時感染予防についてお知らせをした。

E非常対応

・感染予防、災害対策のお知らせを配布した。
・生活リズムの改善を図るため短期入所、グループホームの体験入居の受け入れをした。

保護者による評価

A環境面

・環境面で不満の声はなかった。

B児童への支援内容

・支援計画に対して不満の声はなかった。
・外部と交流しているのか分からない。

C事業所からの情報発信

・父母会を開催していない。
・支援内容や児童の様子の説明を受けているという回答が多かった。

D非常対応

・コロナウイルスの感染情報や児童の様子について共有している。

事業所内での分析

【共通点】

- ・適宜ご家族の悩みや相談を受け面談等を行えるよう心掛けている。
- ・父母会を開催していないこと。
- ・

【相違点】

・ご家族から環境面で不満の声はなかったが、事業所の職員がスペース、職員配置について適切でないという声があがった。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・緊急時の受け入れ体制ができている。
- ・非常時、短期入所での対応も可能。
- ・ご家族の大変な話など聴いて相談しやすい環境を作っている。
- ・災害時の対策として防災用品の備蓄をしている。

事業所の改善点

- ・父母会の開催をしていなかったこと。新規のご家族も増え顔を合わす機会もないため父母会の必要性を感じた。
- ・職員の休憩時間の確保

事業所の改善への取り組み

- ・職員の役割分担を明確にした。フォローが必要な場合も協力しあった。
- ・送迎ルートの確認と同時に運転の練習も兼ねスキルアップを目指した。
- ・モニタリング等の面談時間を増やし、児童だけではなくご家族の生きづらさについて話し合い、信頼関係を深めた。
- ・感染対策でサーキュレーターを設置するなど換気を前年度より徹底した。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

・まず父母会など今年度も開催していないなど改善できていない点がいくつかあった。プログラムについてコロナウィルスを理由にマンネリ化していたと反省した。しかしモニタリング等でご家族と向き合うことで今年度もご家族との関係を深めることができた。

事業所名 うれしの

担当者 福山 悟